

登録コード	HM133200	開講年度	2026			
授業題目	糖鎖生物学特論				担当教員	藤井 千文 他
英文授業名	Glycobiology				副担当	川久保 雅友
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加, 2024HM医学分野加, 2023HM医学分野加					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				様々な疾患の病態形成に係わる糖鎖の役割を理解できるようにする。	
(2)詳細/Detailed information	糖鎖は核酸、蛋白質に次ぐ第三の生命鎖で、発生や免疫、がんなど様々な生命現象と密接に係わっている。近年、糖鎖の生合成に関わる糖転移酵素のクローニングにより、糖鎖を試験管レベル、個体レベルで改変することが可能となってきた。本授業では、様々な疾患の病態形成に係わる糖鎖の役割を理解することを目的とする。					
(3)授業の概要/Overview of course	本授業では糖鎖の構造・生化学から糖鎖異常によって生じる疾患、感染症、免疫、糖鎖情報に基づく病理診断まで、体系的に講義する。					
(4)授業計画/Course plan	(第1～7回 藤井千文・川久保雅友) 糖鎖の構造・生合成と、糖鎖の異常によって生じる疾患 (第8～11回 川久保雅友) 細菌，ウイルス等の微生物における糖鎖生物学研究の意義 (第12～15回 藤井千文) 糖鎖を介した免疫担当細胞による外因性・内因性分子の認識機構					
(5)成績評価の方法・基準/Grading/evaluation method/evaluation criteria	成績評価の方法：第15回の授業終了時にレポート提出を求める。 成績評価の基準：(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」と評価する。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	学会出席など致し方ない場合を除き、欠席することなく出来る限り出席すること。また、授業内容に関連した文献を配布するので、事後学習に活用すること。					
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	各担当教員に直接連絡を取ること。					
(8)授業の形式/Course format	授業に関連した文献を配布する。					